

GPのための



床矯正治療を 成功させる 床装置と設計

【著】大河内淑子

待望の床装置まるわかりBOOK登場!

基本的に、非抜歯による保存的アプローチで行われることが多い床矯正治療。これまで多くの関連書籍が出版されるなか、使用する床装置にフォーカスしたものはありませんでした。床装置の構造や目的、その使い方や活性化を熟知していなければ、当然ながら期待されるゴールには導けません。そこで、各種床装置の解説と設計、そして臨床でそれら床装置をどう組み合わせるのか、症例を織り交ぜて解説する本書を企画しました。さらに、歯科技工士が適切な床装置を製作するうえで欠かせない、技工指示書の書き方も収載。多くの子どもたちをよい歯並び、そしてよい顔貌へと育成する一助として、ぜひ本書をご活用ください。

詳しい情報はこちら



A4判変型・200頁・オールカラー 本体9,000円+税

CONTENTS

第1章 床装置の基本構造

- NO調整、NO床矯正 ● レジン床
- 維持装置 ● 唇側線
- 付加装置 (スクリュー・スプリング)

第2章 床装置の種類別の設計と特徴

- 側方拡大装置 ● 前方移動装置
- 後方移動装置 ● 縮小装置
- 閉鎖型装置 ● 斜面板 ● タンガード
- 咬合挙上板 ● 舌挙上板

第3章 床装置の臨床応用

- 側方拡大装置 (平行タイプ・ファンタイプ)
- 前方移動装置 ● 後方移動装置 ● 縮小装置
- 閉鎖型装置 ● 斜面板 ● 咬合挙上板
- タンガード ● 舌挙上板
- 前歯前方スプリング ● 近・遠心スプリング
- 内・外斜スプリング ● 唇側線

第4章 技工指示書

- 技工指示書の書き方